

## あとがき

『中国重要人物事典』がようやく出版の運びになった。2008年11月に『中国指導者相関図』（高橋博、楊中美共著、蒼蒼社刊）を発刊したばかりで再度の挑戦である。日本出版界は活字離れの風潮の中で長年苦しんできたが、昨年からはさらに世界的な経済不況が重なり、定期刊行物の廃刊も続くなど苦難の道を歩んでいる。中国関連図書はそのうえ、正体不明の「嫌中」ムードに襲われ、三重苦の中で氣息奄々たる有様である。このような情勢下で蒼蒼社が敢えて『中国重要人物事典』を刊行されることに、先ず心からの敬意を表すものである。

ところで、この『中国重要人物事典』は私も共同編集者に入っているが、事典の本体は私でなく「21世紀中国総研」編集陣の努力の賜物である。私はこれまで中国人事の調査・分析をする度に、各指導者の略歴や各指導者間の関係を調べる必要が生じ、その度に各指導者の略歴から入手し得る限りの関連工具書〔学習や調査・分析などの作業を行う際に用いる辞書形式にまとめられた書籍を指す。日本の参考書に相当〕を集め、調査・分析の資料としてきた。しかし、中国の指導者は数人・数十人の単位でなく、しかも最近では毎年の新陳代謝が激しく長くて5年、短いと2～3年で更迭の場合も珍しいことでなくなっている。そのため、人事に絡む発表の度に「工具書」の山の中から関連がありそうなものを引っ張り出し、あれこれと突き合わせて略歴をまとめ、さらに各人の関連を漁るのが慣例行事になっている。

このような作業を何十年と繰り返す中で、私はこれらの数多い「工具書」の中身が一つにまとまり、エクセルなどによる検索・分類操作が簡単に行える「電子書籍化」を実現させられないかと常々願ってきた。しかし、あれこれの資料から200名足らずの簡単な中共中央委員一覧表を作成する場合でも、これらの資料から関連資料を探しあて、分類し、形式を揃えるという単純な、しかし神経を使う辛気臭い作業を延々と続けなければ

ばならないこと、またこのような作業を完成させても決して報われることがないことを知っている身として、このようなことは単なる「願望」、「画餅」と諦めていたのが実際である。

それが昨年、中村蒼蒼社社主兼 21 世紀総研事務局長から「中国重要人物事典データベース」の立ち上げを相談され、念願の夢が実現する希望が出てきたのである。もちろん、「データベース」と名乗る以上は収録人数も数千単位と拡大するし、収録期間も建党以降、少なくとも建国以降に延長されよう。そして、これら資料をパソコンに統一された形式で収めることができたならば、中国人事に関する研究が「電子化」によって迅速化されるだけでなく、範囲も拡大し、深まるだろう。さらに「データベース」は最終的には人事だけでなく、主要事項の日誌や重要事件の関連資料、主要基礎資料もすべて網羅したものにすれば、中国問題研究での資料はこの「データベース」一つでほぼ揃うという、チャイナ・ウオッチャーにとって「夢のまた夢」の実現すらも可能となるものである。

もちろん、そのためには資金・人材など解決しなければならない難題も多いが、すでに蒼蒼社・21 世紀中国総研はアクセスによる中国語—日本語併載の 2000 人余のデータベース（愛称「人物パンダ」）を自力更生で築きあげている。本書『中国重要人物事典』は、この「人物パンダ」からアウトプットされたものである。その中身を CD-ROM にして本書の付録とするプランも検討されたが、今回は時期尚早ということで見送られた。それでも本書の出版は一大壮挙の嚆矢として、大きな夢の実現のための第一歩となるものである。私自身も今後、このデータベースを駆使し中国人事分析を行うことを楽しみにしている。

高橋 博